

私は苫小牧出身で、海や港に馴染み深いこともあり、札幌の大学で海洋・港湾分野の研究室に進み、その縁もあって今の職場に就職しました。

入社当時は右も左も分からないまま、とにかくただがむしゃらに働いていた気がします。入社してあっという間に2年が過ぎた頃、神奈川県にある研究所への出向の話がありました。不安もありましたが、これまで一度も北海道外で生活をしたことがなかった私は、単純に行ってみたいという思いだけで、深く考えずにその場で行きますと即答しました。しかし、いざ行ってみると、研究所には優秀な技術者が全国から集まっており(当然なのですが)、簡単に返事をしてしまったことを後悔しました…。それでも、同じ分野で活躍する同年代の人たちとの出会いがあり、大きな刺激を受けるとともに、仕事へのモチベーションにもなりました。2年間という短い出向期間ではありましたが、技術者として非常に貴重な時間を過ごせたと思います。

その後、札幌の会社に戻り再び設計業務を行うことになりました。当時は港湾の設計基準が改訂になったばかりでしたが、研究所で学んだ設計の技術を仕事に役立てることができたのではと思います。また、ちょうどこの頃、技術士の受験勉強に取り組み始めたのですが、業務を抱えながらの勉強は想像以上に大変で、何度も心が折れました…。それでも周りの諸先輩方の支えがあってなんとか合格することができました。それから10年ほど経ちますが、この原稿を書きながら改めて周囲の方々に支えられて今の自分があるのだと再認識するとともに、こうして得た私の経験や技術を通じて少しでも会社や社会に貢献できればと考えております。

## 奈良 俊介 (なら しゅんすけ)

●建設部門(港湾及び空港)

勤務先

北日本港湾コンサルタント  
株式会社



→次号は、前田健志さん(水産部門)

今年で社会人16年目になります。私は北見の大学を卒業しましたが、当時は就職氷河期で、同じ研究室の同僚も全員が大学院か就職浪人の道を進みました。そんな時代背景もあり、私は特に就職活動もせず、卒業後はアルバイトをしながら日本列島を旅して周ろうと考えていました。結局、教授や親からの説得により現在の会社へ入社が決まったのは卒業間際の3月後半でした。

そんなわけで入社当時は志も低く、友人等から「仕事はどうだい?」と聞かれるたびに「コーヒー飲んでたら給料もらえるよ」なんて冗談を言っていたことを覚えています。それから道路・防災分野で10年経験を積み、6年前から橋梁分野に携わっています。

歳を重ねるとは不思議なもので、経験を重ねるうちに自然と仕事に対する責任と自覚が身に付くものです。人間とはそういうものだと思最近よく感じます。

技術士試験は、平成26年度に合格することができましたが、この資格は技術者としての自覚をより一層向上させてくれるものでした。この当時、私は橋梁分野へ移行したこともあり少々の不安がありましたが、もともと知らない事をコツコツと調べるのが好きな性格で、奥が深い橋梁分野は性に合っていたことと、先に述べた技術士試験合格による自覚向上もあって新たな分野に適応することが出来ました。

数ある業務課題を解決したときの喜びと安堵は技術者の特権だと思います。就職氷河期から一転、近年は沢山の若い人材が入社し活躍しています。今後も先輩技術者から多くの事を学び、彼らとともに微力ながら社会に貢献していきたいと考えています。

## 金子 昇平 (かねこ しょうへい)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社アサヒ建設コンサルタント



→次号は、菊田 寛さん(建設部門)